

近畿における原油高騰の影響

(08年3月、日本共産党の聞き取り調査から)

トラック業界

・軽油価格がどんどん上がっているが、なかなか荷主には値上げを言えない。航空業界などは、燃料サーチャージといって値上げ分を運賃に転嫁できるが、トラックではそういかず、結局、この事業主と運転手へのしわ寄せになる。(京都)

・規制緩和で、京都府下ではトラック車両30台以下の中小零細業者が85%になり、台数は1.7倍になった。原油高騰は死活問題。「軽油引取税の暫定税率を撤廃してほしい」と多くの事業所が言っている。これだけ燃料費が高騰しているもつで「サーチャージ」の導入も求めたい。「運賃の引き上げも必要」とガイドラインなど示してほしい。(京都)

・【トラック労働者】高速道路料金の引き下げが対策として挙がっているが、この間、交通社会実験などの名目で実施されてきた ETC を使った時間帯割引だと、労働者にとっては走りたくない夜間・深夜に走らされることになるのではないかと不安。時間帯で区別しない総額割引や、下道が渋滞する昼間の時間帯の割引でないと、省エネにもならない。ETC で個々の車両を識別可能なのだから、トラック輸送の登録業者だけ値引きするのも可能では？(京都)

・【建交労・京都の調べ】軽油価格を運賃に転嫁できていない事業者が73.7%、ほぼできていないのは0.7%だ。赤字経営は43.1%(4.1%増)、廃業も考えているのは4.3%(1.1%増)で、有益悪化の主な理由では「燃料費など運行コストの増加」が82.1%と最多。

・トラック協会加盟事業所のドライバーは8000人。3年間で12社が倒産。原油高騰で経費はこの3年で1.7倍に。航空などは旅客費に転嫁できるが、トラックはそうはいかない。(奈良)

バス・運送・配送業

・バス会社 原油価格リッター1円アップで年間経費は1000万円の影響。この間10円アップなので1億。10年間で経費は1.5倍に。アイドリングストップなど環境対策も兼ねて企業努力をやっているが、これ以上の節約はムリ。天然ガスの低公害車なら安価だが、供給スタンドが県内に2カ所しかない。穀物を使ったバイオ燃料が話題だが、食糧問題が生まれるなど実質的でなく、パフォーマンス的だと感じる。

軽油の引き取り税がリッター32円だが、公共交通に使う部分については免除するなどの措置をお願いしたい。(奈良)

・駐車違反取締りが強化され、競争もはげしく、売り上げ単価が上がらない。車両の入れ替え費用が出ない。軽油の値上がりで経営は危機的。ガソリン税、揮発油税を下げしてほしい。燃料費高騰がすすめば、不正軽油などを助長することになる。(京都)

・運送会社ではこれまで売り上げの2割が燃料代だったが、今は3割に。しかし、荷主からの運賃は上がらない。トラックを減らして過密労働にするしか道がない。今トラック業界は労基法がない状態で、オール歩合制で1週間トラックに乗りっぱなしという事例もあり、争議になっている。運輸70台のある事業所は、燃料がリッター1円上がると年間90万円の負担増。タクシーのガスは1リットル60円だったのが77円に。今年は90円にあがるといわれている。以前は売り上げの6%が燃料代だったが、今は10%に。労働強化するしかなく、労働者の手取りは月10万円程度。(奈良)

タクシー業界

・LPガス価格が上がり、57円/リットルだったのが、いま87円で(来年)1月には95円になる。営業2日間で3000円までだった燃料費が4000円超の負担になり、個人でなんとかできる範囲を超えている。組合事務所には連日サラ金相談が寄せられ、生活資金や営業車買い替え資金に困ってサラ金に手を出さざるを得

ない状況が広がっている。以前なら、行政の低利子融資などが受けられたが、いまは受けられなくなっている。(京都)

石油販売および運輸業者

・メーカー直販の石油は値上がりしているが、商社仕入れの石油は仕入れ値メーカー地価取引より高くなっている。メーカー仕入れは予約金が必要であり、通常3カ月分程度必要。(600万円ほど)。ガソリンスタンドなどは予約金のつきましができないところは、現金取引となる。仕入れすらできない業者が出だしている。運輸はルート配送で契約料金制(軽油 80 円で計算)のため、赤字状態。(京都)

建交労京都府本部: 西山泰治副執行委員長、関西合同支部: 足立浩書記長

・トラック業界全体で、倒産がじわじわ増えている。中小零細が多い。事業者アンケートを 500 社に送って 72 通返信。全国の集計は 562 社分で、「赤字経営」43.4%、「廃業も考えている」4.3%。軽油上昇分の運賃転嫁が「まったくできない」73.7%。収益悪化の主な原因は、「燃料費などの運行コスト増加」が 82.2%。不公正取引では、「説明もなしに一方的な運賃カット」11.7%、「協力金、賛助金の要求」12.5%となっている。

・トラックは「12 兆円産業」といわれるが荷主からの支払い総額は 8 兆円。つまり、荷主→元請け→下請け→孫請け、のような建設業界と同じくみがある。荷主→元請の間のとりしまりはあっても、元請→下請け間のとりしまりはきわめて弱い。実際、「日本通運」などは、「原油高騰の折…」として運賃表の最後に「▲10%」「▲15%」などと割引することを記したものを一方的に FAX してくる。また、連続運転時間や駐車禁止などの違反が横行から、大手は自社車を走らせず、どんどん下請けに出す。自社車を走らせるのはよほどのこと。

・下請け事業者や運転手は、燃料費高騰分だけ手取りが減るので、その分休みを削って走ろうとする。これまで月 10 回だった運行を 12・13 回にし、コンビニやパーキングで寝たり、徹夜で走る回数が増える。また以前のように、高速で死人が増えることが心配。あまりのキツさに若者は集まらず、50・60 歳代が多くなってしまった。

・「高速料金割引」の要求については、「深夜割引」など時間帯を区切ると、運転手にとってはさらなる長時間労働(拘束)につながる。「正月割引」なども休めない。時間帯を区切らず「総額割引」にすべき。事業者にとっては特に。

・下請けの実態はひどい。綾部のある会社は、「流れの運転手」ばかりを集め、タコ部屋のようなところに置いて使っている。免許証はあってもホームレスのよう。社会保険未加入も多い。…こんな、安心して荷物を任せられないような業界になった根本は、規制緩和の「物流 2 法」。もともと、国の「認可運賃」でやってきたものが自由化され、原価計算などできない事業主も多く、ダンピング合戦に。他、Noxpm 法と大阪府条例(09.1 施行)の関係もあり、京滋でもさらに倒産する会社が出てくるのではないかと。

・府トラック協会は、府からの補助を 2.5 億円ほどもらっているのに、道路特定財源や暫定税率はあまり言えなくなっているようだ(★その補助金の使いみちで、これまで事業主が社員の福利厚生(一泊研修、健康診断、無呼吸症候群の診断など)に使えたのが、府の監査が入り、「安全・環境」と限定されてつかえなくなった。…一度調べてほしい)。

自交総連京都地連——浅井大二執行委員長(京聯タクシー労組)

・タクシーは、LP ガスがほとんど。石油系ガスなのでにも影響を受けている。リース制の会社(MK、葵、都、銀嶺など)は燃料費は運転手持ちであり、この間の高騰で 8,000~2 万円の負担増に。歩合制の会社でも「1 乗務 200 円(月 5000 円ほど)の負担金を」(キャビックなど)、「賃率を 1% 変える(→5000 円ほどの賃下げに)」(比叡タクシーなど)、「でなければ赤字だ。身売りだ」と言い出しているところもあり、労使の攻防になりつつある。

・要求としては、原油そのものを下げてほしい。同時に、タクシー労働者の年収平均 270 万円の現状からすれば、他都市のように 1 割程度の料金値上げを実現してほしい。京都の場合は 1 割安の MK の存在があり、各経営者は「さらに客が減る」との不安から申請もしていない(7 割の会社が申請して初めて審査に入るしくみ)。他、サーチャージ制(値上がり分を別料金に)などの検討も。

・燃料費高騰の会社への影響。京聯タクシーの場合、年間 2000 万円ほど新たな負担が増えると 10・11 月時点の

予想。さらにその後も値上がりしているの、3月末決算では2500万円ほどになると思われる。経営再建以来、月2000万円ほど返済しつつ、さらに負担増になることは経営としても大変しんどい。

・タクシーという業界は、燃料の高騰が、直接会社と運転手にのしかかってくる。労働者に転嫁しないための、行政のなんらかの対策が必要だ。

個人タクシー互助協同組合

・LPガスは「1月に95円」と予定されていたが、いろいろ声をあげて「93円」に。ただ、スタンドなどからは、「100円まで行きそう」と聞こえてきている。

公衆浴場業界

・燃料は、廃油が6割、A重油が3割、廃木材1割。A重油の値上げは、05年1月に46円が、07年7月に70円に。11月には75円。ある浴場では、月に3000～4000円使用しているが、月に24000円以上の負担が増え10万円の減収になっている。料金を上げることもできず苦慮している。ガスに転換したいが、工事費用は自己負担(敷地内)。浴場は地域のコミュニティーと自認している、お客の喜ぶ顔でがんばるしかない。(京都)

・重油が約2倍になり、これから1年で廃業がすすむのではないかと。市民の衛生という公的性質をもつ業種なので行政の支援を。入浴料の値上げを望む。(京都)

・長岡京市に1軒しかない公衆浴場。毎日150人ほど通ってこられる。重油高騰の影響で廃業に追い込まれたら、お年寄りの公的衛生施設がなくなってしまう。(京都)

・重油でお湯を炊いているが、重油の価格は昨年から3倍になった。大手石油会社が輸送経費の増額分を転嫁している。シャワーの出しっぱなしをしないように、などお客さんにも呼びかけたいが、なかなか難しい。奈良市の風呂券(入浴補助券)がなくなったら倒産です。(奈良)

クリーニング店

・ボイラーの灯油、ドライ洗濯の溶剤は5割の値上げ。ハンガー、ビニール袋もすべて石油製品で値上げ。昨年は100万円の減収で、夫婦2人の年金を補填して赤字を埋め合わせている。奈良市の事業者組合支部長が最近倒産した。戦争で両親を亡くし、幼い頃から丁稚で育ててもらい、苦労を重ねてこの道で60年やってきた。着物の染み抜きで全国から依頼が来るなど技術に自信があるが、このままではやっていけない。(奈良)

伝統産業

□絹精練業 燃料に灯油を使っているが、10月に3回値上がりし約100円になる。10月の売り上げは50万円で、燃料費が14万円、これでは商売にならない。(京都)

□京友禅関連業界

・現況は調査中で来春とりまとめる。影響の大きいのは、蒸し水洗業者、染色整理業者で、価格の見直し要請を出している。染料が高騰しているが、仕事を請けるためには安価で受けざるをえない、適正価格を望むが難しい。高齢化や業態が悪く、借り入れても返済できないのが実情。(京都)

□西陣系染業界

・染工、染色業界は9割が赤字、1割はとんとん。このまま不景気が続けば廃業が増える。売り上げに関わる燃料費の比率が、1割から1.5割になる。燃料費が10月より2.3割値上げになった。ガスへ転換したいが、国・府それぞれ3分の1補助が出るが、それぞれ別扱いなのを両面使えるようにしてほしい。(京都)

・重油の高騰はきつい。経費の10%程度が燃料費だったのが15%に増えた。組合として工賃引き上げ要請はしているが、実効性は薄い。織り元などの委託先からは「原料の生糸が上がっており、工賃引き揚げはガマンしてくれ」と言われる。また同業者が仕事ほしさから価格を下げて仕事を取りにいって例もあり、統一価

格は大変難しいのが実態。(京都)

兵庫の瓦産業

- ・もともと震災後から需要が1/3に減っている。そこへ原油価格高騰で、燃料と薬の経費が増え、8月から3割減収になっている。原油価格問題では、瓦1枚あたり10円が20円になり、月にして500万円違ってきている。年商4~5億で6000万円はきつい。薬なども材料代も1割ほど高くなった。
- ・他の瓦産地(島根、愛知など)に比べて土の質が良くないので、本来は価格を下げるべきだが、大橋の通行料金が高いうえ、地の利も悪い(港の利用料金が低い)ので、競争に負ける。中国や台湾などにも市場を広げようと努力しているが、例えば中国は省が違えば手続きが違い、何度も振り出しに戻るのだからやりにくい。中国で展示会をして問い合わせは何件もあったがうまくいっていない。
- ・会社としては収益を伸ばしつつあったが、①大橋通行費問題、②原油価格高騰、③建築許可問題、という3つの政治的問題で被害にあっている。これは責任をもってもらわないと困る。

旅館・民宿

- ・今年の冬は、予約なしでふらりと立ち寄ってくれるお客さんがいなくなった。ガソリン代の高騰で車の使用を抑えている。(兵庫)
- ・旅行会社社長も、「バスが動かない(客がうまらない)」といている。景気は去年より結局悪くなるのではないか。(兵庫)
- ・うちは低温泉のため、ボイラーで一定加熱している。500リットルの灯油を3カ月で使ってしまう。去年と比べて燃料代の経費比率が30%ほどアップした。食事などの材料費も10%~15%上がっている。(兵庫)
- ・クリーニング代も値上げを言ってきている。しかしこれらを宿泊料や食事代に転嫁はできない。どこかで軽減して欲しい。一事業者の努力ではもう限界。(兵庫)

製袋業者

- ・原料が11回の値上がり、大手商社を通じての加工仕事は価格に反映できているが、自家製造販売部門は価格転嫁ができていない。(京都)

卵販売

- ・パック代が上がリ、鶏のえさ代高騰で仕入れも上がっている。(京都)

印刷業

- ・インクやフィルターなど原材料が約3割値上がりしているが、売り単価に転嫁できない。下請け業者は大手の言い値で請け負うしかない。(京都)

花屋 ほとんどハウス栽培なので、生産農家など仕入れ先が維持できずやめたところがある。花の値段は上がり、包装紙も高くなるが、店頭で値上げできない。赤字覚悟で店を開けている。

たこやき屋 1つ売って少しの利益。包装紙が1枚1円もする。(和歌山)

喫茶店 コーヒー豆は5~6%上がっている。(和歌山)

衣料品店 いままでハンガーを使い捨てにしていたが、再利用を考えなければいけない。包装紙、紙袋10%くらい値上がりしている。服は徐々に値上がり。しかし商品の価格を上げるわけにはいかない。(和歌山)

板金塗装業

- ・材料のシンナーが3割上がっている。(京都)

ダンボール製造業

- ・プラスチックダンボール材料が30%アップした。(京都)

中小企業団体

- ・全体として不況の影響が大きいというのに、石油製品、ガソリンなどの値上げで、先行きが見えない不安な状

態。融資制度をつくっても責任保証制度で銀行が貸してくれない。今の借入を条件変更して次に借入できるか不安だ。利子補給や、借入期間の延長をしてほしい。また、ガソリン税や揮発油税の暫定税率廃止など、ともかく原油高騰の影響を引き下げてほしい。(京都)

福祉施設

・介護部門では、送迎車のガソリン代への影響は年末にはっきりしてくると思う。また、給食の食材がのきなみ値上がりしている。保育園では、暖房費がたいへんで、一つの部屋に子どもを集め、他の部屋も職員の休憩室も暖房を切っている。5時以降は子どもにジャンパーを着せて暖房を切ってお迎えを待っている。(京都)

・【兵庫のある共同作業所(通所)】送迎にかかるガソリン代負担増は150万円(07年)→175万円(06年)に値上がり。今年だけでも、129,689円(5月)→166,815円(11月)に。このほか昼食サービスのための、食器洗い洗剤は1380円(25kg・月)上がる。

・【障害者福祉工場(クリーニング)】燃油が3年前の2倍。経費が大きく増えている。(和歌山)

老建施設

・送迎車両は9台、月に200ℓ使用。(京都)

教育関係者

・学校はいま、プールの水から暖房まで、節約、節約と言われる事態になっている。去年は灯油庫のカギを管理職が持っていて、教員が自費で灯油を買ったという事例もあった。今年はずっとひどい事態が起きるのではないか。給食は4月からは確実に値上げになると思う。年間契約をしていない油・小麦などは3学期から値上げになる。原油高騰の影響で給食費の値上げがあるかもしれない。(京都)

ハウス栽培農家

・ハウスの温度を下げたり、目張りをして対抗している。(京都)

・ハウスのビニールが1週間で5000円も上がった。ドアも6万円から8万円に。肥料も上がるし、水菜の値段は安いし、何をしているんかわからん。原油高騰は何であんなことになるのか。国が何とかできないのか。(京都)

・【ブドウハウス14棟、トマトハウス3棟】原油高騰でトマトハウスを大幅に減らした(13棟から3棟に)。バカらしくてやられてられない。来年はやめるつもり。高騰分の補助が欲しい。ブドウの箱代も上がっている。(京都)

・【いちご農家の集まる集落で、地域唯一の後継者・ホープといわれている30代の専業農家】去年は灯油の値段が上がるなんて考えていなかったのも、たいへん。原油高の影響で、いちごパックや段ボール(10円アップ)の値段があがった。スーパーでは¥398で固定されるので、輸送の経費や原料経費があがったら全部生産者が負担するしかない。4人家族総出で働いても、1日の売り上げは3万程度。経費をひくと、時給は200~300円。(奈良)

・ハウス栽培のトマト農家 40円台だった重油が12月には86円になった。1年間で100万円ほど油を炊くからたいへん。トマトは13℃に設定するが、みかんはもっと高い温度やから大変だろう。重油を節約するには、パイプを通して土を暖めるほうがいいと思う。(和歌山)

畜産

・【親の後を継いで60頭の牛を搾乳している20代の青年】えさ代の高騰が痛い。今のところは3割アップだが、これ以上上がると赤字。30年近く経って、やっと借金を返済できたところなのに。生活できるギリギリの収入だ。融資等の対策ではなく、生乳の価格が上がるよう支援して欲しい。堆肥販売のためのガソリン代は出ない。えさは

すべて輸入。休耕田でつくったこともあるが、返って高くつくのでやめた。仔牛も半値でしか売れない。(京都)

漁業関係者

□カニ漁

・水揚げは1億4000万円前後。一方燃料代は、漁をする 9カ月で1200万円～1500 万円だったが、今年は9月ですでに3000万円になった。(兵庫)

・船は82トンで、今は1隻3億2000万円～3億5000万円する。5年に1度の定期検査で1500万、2～3年に1回の間検査で1000万円かかる。さらに毎年手入れで300万円ほどいる。

経費は高くなってきたが、水揚げは20年間ほとんどかわらない。(兵庫)

・今後が見えないから新たな投資はできない。他の船頭のところも似たり寄ったりだから、うちが潰れると他も潰れる。連鎖反応みたいになるだろう。(兵庫)

・漁業では水揚げの3分の1が重油代に消える。カニの底引き船などは燃料節約のためスピードを出さない、漁場を移動しないなどがマニュアル化されている。一回の漁で支出する燃料費、資材などは10万円を越える。商売にならないなら漁を休んだ方がいい。(京都)

□イカ漁

・水揚げは8000万円前後。燃料代が今年は3000万円になっている。船は19tで、定期検査は義務付けられていない。1隻1億3000万円から1億4000万円。 3人でやっているが、人件費1人500万円出すのがやつと。しかも今年は漁が減っており、北海道・稚内あたりまで出かけているから余計に燃料他の港での水揚げが増えているため、今年初めに1700円だった相場が、最近1000円にまで落ちた。(兵庫)

・イカ漁は、昼の12時過ぎに出港し、翌朝7時くらいまで。約20時間船のエンジンと発電機のために燃料は焚き続ける。止めることはできない。満月時は赤字になるくらい発電機で燃料を食う(一回の水揚げ10万円で燃料代が15万円)。それを満月以外の日に取り返す。しかし燃料代が高くて取り返せなくなってくる。安心してエンジンを回せない。毎日ヒヤヒヤしている。(兵庫)

・イカを出荷する発泡スチロールの箱も1個160円が200円に値上がりしている。これを16000個から20000個だから、64万円から80万円も経費がかかることになる。(兵庫)

・今でも資金繰りにしかなっておらず、次につなげる資金は貯まらない。20年前は1リットルあたり30円だった。それがいつの間にか60円になり、今は80円。これ以上燃料代が値上がりすると、船を出しても赤字になるばかり。しかし借金があるから辞める訳にはいかない。恐らくほとんどの漁師が最悪の場合破産する。(兵庫)

・せめてこれ以上上がらないようにして欲しい。1リットルあたり5円でも下がれば一息つける。(兵庫)

・政府の「省エネ設備への転換支援基金」は実質使えないだろう。イカ漁でいえば、照明を発光ダイオードや光ファイバーに切り替えることなどしかない。しかし、どちらも使えないことは現場ではだいたい結論が出ている。白熱灯を省エネランプに変えたのは成功だったが、それはもう誰もが切り替え済み。(兵庫)

・貸付金も、本来、借金返済にまわしている分を燃料代にとられている。水揚げがかかわらず借金ばかり増やしても将来が不安になるだけ。(兵庫)

□海苔、いかなご、ちりめんじゃこ

・海苔はこの10年間で単価が約半分(1枚20円→10円に)になっている。ここ数年でも2～3円下がっている。

・ちりめんじゃこは、この2年間ほとんど漁がない。昨年8月以降は利益が出ていない。

・燃料(軽油)代が75円から95円に値上がりしている。ちりめんじゃこを捕るために必要な袋は1枚2500円が3000円に値上がりした。網も2割増(自前で一式400万円、漁具店では800万円程)。

・ほとんど沖には行けない状態(100日以下)になっている。燃料を炊くだけ赤字。

・昨年の水揚げは2500万円程。このうち燃料代が500万円。その他必要経費を引くと一人180万円弱になる。

・今年4月のいかなご漁で利益が出なければ破産する。(以上、兵庫県淡路島)